資料２

報道の取り扱い
① ﾃﾚﾋﾞ・ﾗｼﾞｵ・ﾈｯﾄ　令和７年２月 10 日（月）　15:00 解禁
② 新　　聞　令和７年２月 11 日（火・祝）朝 刊 解禁

# 令和７年度

# 丹波県民局当初予算（案）の概要

兵庫県丹波県民局

# 令和7年度丹波県民局施策体系表

〔重点目標Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ〕

| | | | |
|---|---|---|---|
| **Ⅰ「森」の保全と活用　ー守り、活かすー** | | **4,654** 千円 | ① |
| 拡 | ・丹波の里山づくり促進事業（アクティブ・フォレスト・プロジェクト） | **2,350** | ・・・P１ |
| 拡 | ・丹波の環境パートナーシップづくり事業 | **1,093** | ・・・P２ |
| | ・不法投棄をさせない！きれいな丹波づくりの推進 | **211** | ・・・P３ |
| | ・桜づつみ回廊の美観保全 | **1,000** | ・・・P４ |
| **Ⅱ 集落、まちの創生ー居心地の良い「場」の創出ー** | | **15,079** 千円 | ② |
| 新 | ・「丹波地域の農地整備ビジョン」の策定 | **2,000** | ・・・P５ |
| | ・地域でため池を守るプロジェクト | **1,000** | ・・・P８ |
| | ・まちの拠点創造プロジェクト | **1,800** | ・・・P９ |
| 新 | ・移住・定住促進支援事業 | **1,620** | ・・・P10 |
| 拡 | ・ＪＲ加古川線維持・利用促進事業 | **5,000** | ・・・P11 |
| | ・ＪＲ福知山線の利用促進 | **1,300** | ・・・P12 |
| | ・学生等による地域貢献活動の推進 | **1,100** | ・・・P13 |
| | ・地域防災力の充実強化事業 | **1,259** | ・・・P14 |
| **Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり** | | **59,625** 千円 | ③ |
| 拡 | ・兵庫丹波ブランド農産物の生産振興強化 | **4,147** | ・・・P15 |
| 拡 | ・先端技術等を活用したスマート農業の推進 | **2,500** | ・・・P16 |
| | ・兵庫丹波ブランド農産物の魅力発信 | **5,500** | ・・・P17 |
| | ・丹波の地酒魅力向上事業 | **500** | ・・・P18 |
| | ・食文化ツーリズム・プロジェクト | **500** | ・・・P19 |
| | ・四季の丹波「コト体験」の充実 | **2,420** | ・・・P20 |
| 拡 | ・丹波広域観光の推進 | **8,890** | ・・・P21 |
| | ・恐竜化石フィールドミュージアムの推進 | **5,274** | ・・・P22 |
| 新 | ・恐竜スポット周遊二次交通の整備 | **8,124** | ・・・P23 |
| | ・丹波すぐれもの大賞-TAMBA INNOVATION AWARD-による顕彰 | **740** | ・・・P24 |
| | ・人材確保・産業立地推進事業 | **875** | ・・・P25 |
| | ・“シリ丹バレー”構想の推進 | **13,155** | ・・・P26 |
| | ・たんばLPS(Local Problem Solution)チャレンジ事業 -“シリ丹バレー”構想の推進-(再掲) | **7,000** | |
| **Ⅳ 柔軟な働き方が可能な社会の形成** | | **0** 千円 | ④ |
| | ・民間副業人材の活用・ユース起業アカデミーの開催 -“シリ丹バレー”構想の推進-(再掲) | | |
| **Ⅴ 創造的人材の育成･活用と地域文化力の向上** | | **11,381** 千円 | ⑤ |
| | ・グローカル丹波２０２５推進事業 | **1,465** | ・・・P27 |
| 新 | ・万博関連プロモーション事業 | **3,000** | ・・・P28 |
| 新 | ・ＴＡＭＢＡのもりびと10万人計画～丹波の森創造プランの実践～ | **1,479** | ・・・P29 |
| | ・たんばユース躍動プロジェクト | **2,097** | ・・・P30 |
| 拡 | ・シューベルティアーデたんばの支援 | **1,789** | ・・・P31 |
| 新 | ・集落文化発掘・体験事業 | **1,551** | ・・・P32 |
| **Ⅵ 人と人とのつながり拡大と新たなコミュニティ出現** | | **4,974** 千円 | ⑥ |
| | ・丹波２０５０地域ビジョン推進事業 | **4,974** | ・・・P33 |
| | ・スマート・コミュニティ・プロジェクト -“シリ丹バレー”構想の推進-(再掲) | | |
| | その他　共通事務費等 | **9,237** 千円 | ⑦ |

［計31事業(再掲除く)： 新規6　拡充7　継続18］

①+②+③+④+⑤+⑥+⑦= **104,950** 千円 **a**

**a ／ b ＝** 110.1%

（参考）令和６年度予算額　95,340 千円 **b**

# ㊊丹波の里山づくり促進事業
## （アクティブ・フォレスト・プロジェクト）

### １　事業目的

丹波地域では、昭和６３年に「丹波の森宣言」を採択し、地域全体を一つの森としてとらえ、自然と人と文化が調和した地域づくりを進めてきた。

その一環として、次の世代へ「美しい里山」を繋いでいくため、里山づくりに向けた意識醸成や情報発信の取組を県民局、丹波篠山市、丹波市及び(公財)兵庫丹波の森協会が共同して推進する。

### ２　事業内容（平成３０年度～）

#### （１）丹波の森を未来につなぐフォーラム開催事業

里山を大切に守り育て、未来へつなぐ意識醸成と新たな担い手の確保を図るため、フォーラムを開催する。

・丹波の森を未来につなぐフォーラム開催（令和７年１１月）

#### （２）丹波の里山づくり発信事業

地域住民等が自ら継続的に里山を整備できるよう、その活かし方、楽しみ方を広く情報発信する。

木の駅プロジェクト

**ア　里山活動団体への支援**

モデル団体に認定した活動団体等の要望に応じて、アドバイザーを派遣し、イベント企画、行政担当部局や木の駅プロジェクトとの連携など収益性を確保しつつ、継続的な活動ができるよう支援する。

**イ　WEBサイト「森機応変」の整備**

丹波の里山に関わる活動の情報発信だけでなく森林所有者からの相談や里山資源を活用した加工品販売に対応するため、ワンストップ窓口として開設したWEBサイト「森機応変」のコンテンツ整備を実施する。

（URL: https://tanba-satoyama.jp/）

WEBサイト「森機応変」

#### （３）里山育成手法の調査研究（令和７年度～　新規）

森林の将来ビジョンを描くことができるよう、丹波の森公苑等において人工林や天然林ごとの利活用区分に応じた里山林整備後の調査研究等を行い、地域の里山活動団体が実施する生物多様性の保全やSDGsの取組みを支援する。

### ３　予算額　　２，３５０千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 丹波農林振興事務所<br>森林課 | 森林課長<br>上田　敦祐 | 内線３０６<br>(直)0795-73-3795 |

# ㊊丹波の環境パートナーシップづくり事業

## １　事業目的

「源流の里」である丹波地域には、貴重な動植物をはじめとする多様な生物が生息しており、その保全については、県、市、住民団体等関係主体が連携し、継続して活動できる仕組みとして、平成25年に「丹波地域環境パートナーシップ会議」を設置し、貴重な動植物の保全・再生意識の高揚、環境学習を実践することで、SDGsに幅広く取り組んでいる。

令和７年度は、情報誌等による情報発信を行い会員相互の交流を促進するとともに、環境学習プログラムとして、出前講座を開講する。また、生物多様性保全とネイチャーポジティブを実現するためのセミナーを実施する。

※ネイチャーポジティブ：（環境省HPより）
日本語訳で「自然再興」といい、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」ことを指す。

## ２　事業内容(平成２５年度～令和７年度)

### （１）情報誌等による情報発信、交流促進(継続)

平成26年度から開始した情報誌の発行等を継続し、情報発信、会員相互の交流促進を図る。

### （２）環境学習プログラムの提供（拡充）

パートナーシップ会議参加団体から小学校や中学校等に講師派遣を行い､丹波地域の自然(里山、河川、生物等）を活かした環境学習プログラムの提供を行う（出前講座の実施）。
（例）水生生物調査講座、地球温暖化防止講座、自然体験講座、木工体験講座等

### （３）生物多様性の保全と回復に関するセミナー（継続）

令和４年度から実施している生物多様性に関するセミナーを継続実施する。令和７年度は、専門家や活動団体から、生物多様性保全の重要性、生態系サービスの人間生活への影響等について学び、丹波地域でのネイチャーポジティブを実現するためのセミナーを実施し、同時にSDGs達成を目指す。

会場：丹波市または丹波篠山市
時期：11月～1月の1日
対象：一般県民（大人中心、現地、WEB 200人程度）
内容案：講演(専門家等)、実例紹介（活動家等）、パネルディスカッション・意見交換

## ３　予算額　　１，０９３千円

（写真：令和５年度のパネルディスカッションの様子）

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>環境課 | 室長補佐兼課長<br>石倉　洋介 | 内線２７８<br>(直)0795-73-3773 |

# 不法投棄をさせない！きれいな丹波づくりの推進

## 1　事業目的、効果等

丹波地域の産業廃棄物の不法投棄対策として管内のパトロールを実施しているが、平成25年度から開始した「不法投棄をさせない！ きれいな丹波づくり」の効果もあり、平成25年度以降は10トン以上の不法投棄はなかった。

表　10t以上の不法投棄事案　　上段：件数　下段：投棄量(t)

| | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|---|---|---|---|---|---|
| 丹波地域 | 0<br>0 | 0<br>0 | 0<br>0 | 0<br>0 | 0<br>0 |
| 県全体 | 1<br>210 | 4<br>860 | 3<br>6,059 | 6<br>15,476 | 2<br>20,121 |

令和７年度も、これまでの事業に引き続き取り組むとともに、不法投棄の早期発見及び未然防止を図るため、監視カメラ等の機材の貸出しを行う。

## 2　事業内容(平成25年度～令和７年度)

### (1) 不法投棄防止講習会の開催

丹波地域及びその周辺の建設業者等を対象とした講習会を年１回秋頃開催し、法令等の周知、検挙事例の紹介等を行い法令遵守の徹底を呼びかけ意識の向上を図る。

- 時　期：令和７年10月～11月頃
- 講　師：学識者や専門家(計２名)
- 対　象：丹波地域及びその周辺の建設業者、
  ボランティア不法投棄監視員、行政、警察等
- 会　場：丹波地域（丹波篠山市又は丹波市）の会場を使用

### (2) 不法投棄防止協力事業所及びボランティア不法投棄監視員の積極的活用

不法投棄防止協力事業所(94事業所)及びボランティア不法投棄監視員(28名、任期：令和５年度～７年度)による県民局等への通報制度を引き続き運用し、管内の関係機関と連携して、不法投棄の早期発見及び未然防止を図る。

### (3) 監視カメラによる不法投棄の未然防止

監視カメラを用いて夜間や休日等､住民や行政の監視が行き届かない時間帯の不法投棄を未然に防止するために不法投棄多発地点に監視カメラを設置している。近年、県下では大規模な不法投棄事案が発生しており、管内での不法投棄の未然防止の強化を図るため、監視カメラ等の機材の貸出しを実施する。

## 3　予 算 額　　２１１千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>環境課 | 室長補佐兼課長<br>石倉　洋介 | 内線２７８<br>(直)0795-73-3773 |

# 桜づつみ回廊の美観保全

## 1　事業目的

兵庫県は、平成３年度から12年度にかけて、瀬戸内海から日本海を結ぶ延長約170kmの河川沿い(武庫川～篠山川～加古川上流～円山川)を約５万本の桜でつなぐ「ふるさと桜づつみ回廊」を整備した。

整備されてから約30年が経過している桜づつみ回廊について、市と連携して、桜の保全活動を行う団体を支援し、丹波地域の桜の保全、長寿命化を図る。

## 2　事業内容

桜の保全活動を実施し、市が補助を行う地域住民団体を対象に、団体が実施するてんぐ巣病対策又は桜守（樹木医）の指導等の活動、その他景観保全に関する費用を補助する。

＜対象団体＞

桜の保全活動を実施し、市が補助を行う地域住民団体

丹波篠山市：ささやま桜協会※1

※１：桜守、自治会、まちづくり協議会、造園組合、観光協会等で構成する団体で、丹波篠山市内の桜の保全活動を実施

＜対象事業＞

補助対象経費　　団体が実施するてんぐ巣病対策又は桜守（樹木医）の指導等の活動、その他景観保全に関する費用

補助額　　市と同額を補助（県負担分は上限1,000千円）

## 3　予 算 額　　１，０００千円

桜づつみ回廊周遊ルート

篠山川沿いの桜づつみ

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 丹波土木事務所<br>企画調整担当 | 所長補佐<br>乳原正文 | 内線３５３<br>(直)0795-73-3828 |

# ㊪「丹波地域の農地整備ビジョン」の策定

## １　事業目的

黒大豆や栗、小豆などのブランド農産物を有する丹波地域は、早くからほ場整備が進められ、県下でも高い整備水準を有しているが、水路等農業用施設の老朽化や維持管理が課題となっている。そこで、次代の農業経営にマッチした農業基盤の整備に向け、スマート農業機械の導入や丹波ブランド農産物の生産性向上の促進を図りながら、作業の安全や豊かな自然環境にも配慮した「丹波地域の農地整備ビジョン（仮称）」を策定する。

## ２　事業内容　（令和７～９年度）

### (1) 農地整備ビジョン検討会の開催

農地・農業用施設にかかる維持管理の現況を把握し、「農業者の負担軽減」「農産物の増産」「生態系に配慮」を目的とした農地整備手法について検討する。

（構成員：農業者、学識経験者、管内各市、県民局）

・農業用施設にかかる維持管理の現況調査の実施

・丹波地域に適した農地整備のあり方検討会の開催（年２回）

### (2) モデル地区における整備計画の立案

・モデル地区での整備計画の立案と実証調査（ケーススタディ）

・地域住民と農業者とのワークショップ

### (3) 農地整備ビジョンの策定・啓発

丹波地域の農地整備ビジョンを策定し、集落や管内各市に対し、再整備を促進するツールとして普及・啓発を図る。

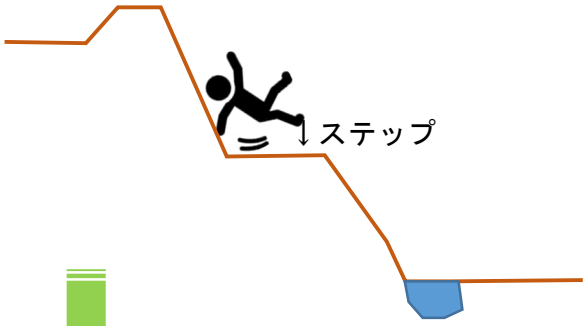
## ３　予 算 額　　２，０００千円

スマート農業の導入事例
（スマートホンから操作可能な自動給水栓）

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 篠山土地改良事務所<br>農村計画課 | 所長補佐兼課長<br>植杉　武生 | (直)079-552-7417 |

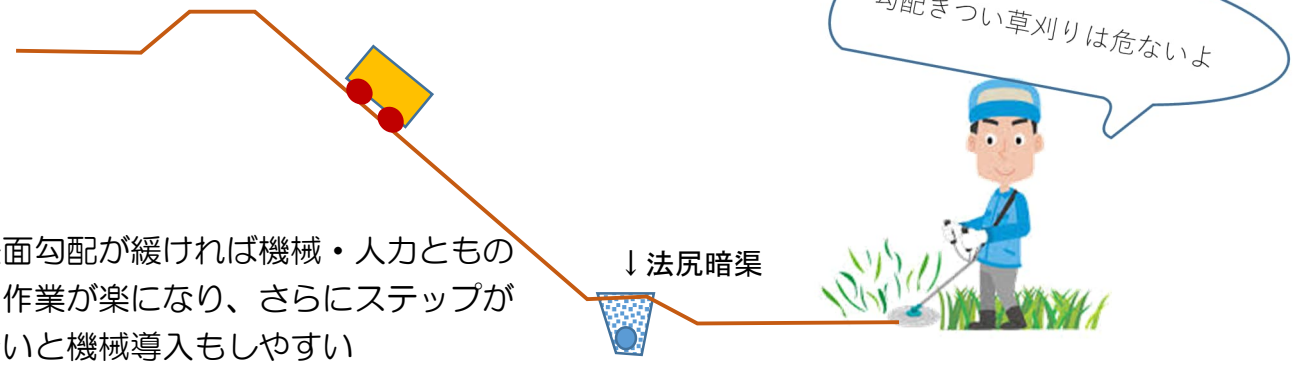
# 農地整備ビジョン　イメージ図

## （例１）　作業性を高めるための整備イメージ




法尻が湿気ってる～(>_<)

勾配が急になると作業が危険なため草刈りが放置される場合が多い



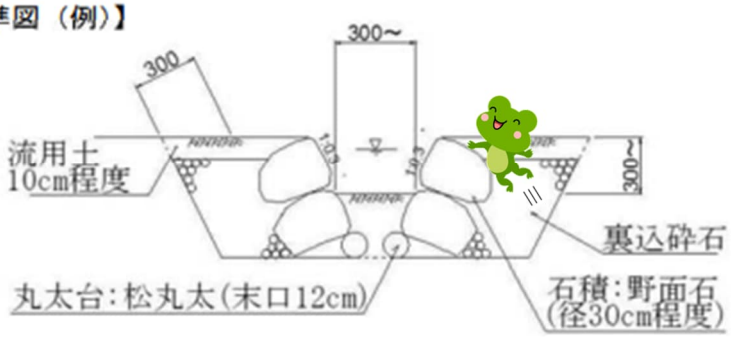

法面勾配が緩ければ機械・人力ともものに作業が楽になり、さらにステップがないと機械導入もしやすい

法尻の湧水は積極的に排出することを基本とすれば作業効率が上がる

## （例２）　生態系に配慮した整備イメージ

【施工例】

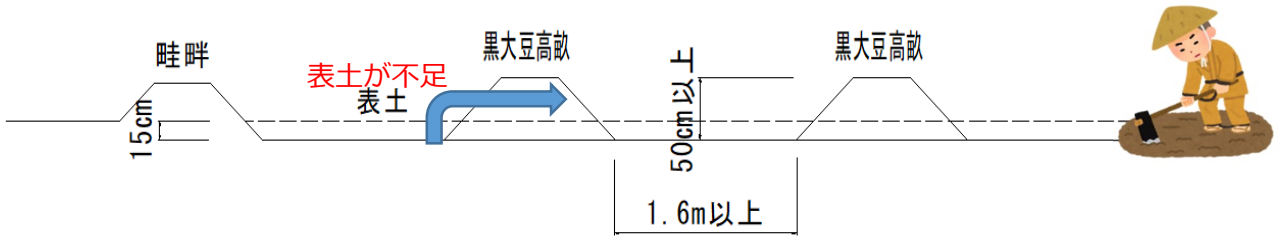
【標準図（例）】



## （例３）　畑作に対応したほ場の整備イメージ

### 通常のほ場

### 黒大豆を生産性向上させるためのほ場




丹波篠山市農業遺産推進協議会 HP より

・表土が不足し高畝ができない
　⇒表土厚を確保した整備
・乾田化はほ場整備によりできているが、最近の高温傾向で用水が必要との指導に変化
　⇒黒大豆栽培の用水量を考慮した用水路の整備

# 地域でため池を守るプロジェクト

## １　事業目的

「ため池の保全等に関する条例」に基づき、適正な管理と多面的機能の発揮の促進を図るため、ため池の景観や、それにまつわる地域の文化・歴史を県民に対して広く発信することにより、都市農村交流を促進するとともに、ため池の所有者等に対してため池の管理や保全の意識を高揚させる取組を実施する。

## ２　事業内容　（令和３年度～）

### (1) ため池のかいぼり実施

ため池の多面的機能について再認識し、保全への意識を高めるため、ため池のかいぼり等を実施する。

実施内容：かいぼり、機能・構造研修会、自然観察会など

実施箇所：丹波地域のため池２箇所

ため池かいぼり（大内池）

### (2) 農業用ダム・ため池魅力発信事業

丹波地域のため池は、山裾に設置された谷池形状のものが多いため、県民の目に触れる機会が限られているが、これらが持つ優れた景観を観光資源として活用し、様々な方法でため池の魅力を広く発信することで、地域への来訪者を増やし、地域の活性化を図る。

ア　インフラツーリズムマップ作成（一部変更）

丹波地域の農業用ダムや主なため池を掲載した案内マップを整備し、都市住民などが現地を訪れる際に活用できるようにする。

イ　ため池情報の発信

令和６年度までに特定ため池を対象として看板を作成し、ため池管理者により設置されているが、ため池諸元等の情報や緊急時における連絡先等に容易にアクセスできるようQRコードを作成し看板に貼付する。

ため池看板（設置例）

### (3) 事業主体

県

## ３　予算額　　１，０００千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 篠山土地改良事務所<br>農村計画課 | 所長補佐兼課長<br>植杉　武生 | (直)079-552-7417 |

# まちの拠点創造プロジェクト

## １　事業目的

丹波地域の中心市街地（JR 柏原駅南用地等）において、まちの交流ゾーンとしての求心力向上に向け、多拠点居住やテレワーク等新たな暮らし方、働き方にも対応した複合的な都市機能を官民共同で推進する。

## ２　事業内容

### (1) JR 柏原駅南用地における利活用の検討

R6 年度実施の民間企業等へのサウンディング型市場調査結果に基づき、事業者公募等の検討を行う。

### (2) 活動拠点（柏原スタジオ）の運営支援等

まちの拠点創造プロジェクト推進の拠点の一つと位置づける「柏原スタジオ」の運営を支援する。

支援の概要
- スタジオの家賃や光熱水費等の経費の補助
- 中高生の放課後の居場所づくりのための運営の委託

(柏原駅南用地現況写真)

(柏原スタジオの高校生利用状況)

## ３　予 算 額　　１，８００千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 丹波土木事務所<br>まちづくり建築課 | 所長補佐兼課長<br>福田　充宏 | 内線３９１<br>(直)0795-73-3860 |

# ㊕移住・定住促進支援事業

## １　事業目的

近年、田舎暮らしや地方移住への関心がある中で、移住後の暮らしなどを体験できるツアーのニーズが高まっている。そこで丹波地域両市にまたがるツアーを実施することで、ツアー参加者が両市を比較でき、移住後の生活が明確になり、移住前後のギャップを減らすことで更なる移住者数の増加・定住の促進を図る。

## ２　事業内容

### （１）移住・定住促進支援事業

丹波地域への移住・定住の促進を図るため、先輩移住者との交流会や空き家を巡る、日帰りまたは一泊二日のツアーを実施する企業・団体等に対して、ツアー実施に要する経費を補助する。

① 補助対象者

丹波地域に本店又は活動拠点を有し、移住・定住を促進する事業を行う中小企業、中小企業団体（事業協同組合等）、小規模事業者、個人事業主等（地域団体や農業従事者等を含む）

② 補助対象

ツアー実施に要する経費

（訪問先講師謝礼、バス借上げ費、物品購入費、宣伝費　等）

③　補助額

日 帰 り：上限８万円

一泊二日：上限16万円

## ３　予算額　　１，６２０千円

移住体験の様子

移住者と地元の交流会

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 室長補佐兼班長<br>田路　正崇 | 内線414<br>(直)0795-73-3779 |

# ㊊ＪＲ加古川線維持・利用促進事業

## １　事業目的

ＪＲ加古川線（西脇市駅～谷川駅間）は、ＪＲが公表した輸送密度 2,000人/日未満の路線に該当しており、近畿でもっとも厳しい利用状況であり、大阪・関西万博閉幕時において利用状況に勢いが見られない場合は、地域公共交通のあり方議論の開始を検討することとなっている。

このため、丹波市、西脇市、北播磨県民局、丹波県民局などを構成員としたＪＲ加古川線利用促進協議会（仮称）による地域一丸となった効果的な事業を実施することにより、同線の更なる利用促進に繋げる。

## ２　事業内容

### (1) 加古川線利用促進事業

ＪＲ加古川線利用促進協議会（仮称）を設立し、更なる利用促進に繋げるため、次の事業（案）等を実施する。

①　貸切列車の運行

ＪＲ加古川線の駅を発着する臨時貸切列車（例：恐竜列車 等）の運行

②　沿線観光施設等「周遊サイクリングコース」の造成

沿線地元団体が久下村駅、黒田庄駅、比延駅に導入しているレンタサイクルで周遊できるサイクリングコースの造成

③　ランタンイベント実施

ＪＲ加古川線への思いや願いを書いたランタンを夜空に打ち上げるイベントの実施

### (2) 加古川線リレーマルシェ

久下村駅等の駅前広場等において、キッチンカーや屋台の出店によるマルシェ（夜市）を開催する。

北播磨県民局管内でも開催し、リレーマルシェとして取り組む。

実施時期：平日夜年２回程度

実施主体：丹波県民局、久下自治振興会 等

久下村夜市で賑わう駅前広場

### (3) 環境学習列車

加古川でつながっている丹波地域と播磨地域の生物多様性や河川環境を学ぶ環境学習列車を運行し、加古川線の更なる利用促進に繋げる。

開催回数：年１回実施

## ３　予　算　額　　５，０００千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>総務防災課 | 班長(企画防災担当)<br>藤原　猛雄 | 内線２１３<br>(直)0795-73-3718 |

# ＪＲ福知山線の利用促進

## １　事業目的

ＪＲ福知山線は、阪神地域と但馬地域を結ぶ重要な幹線であり、丹波地域にとっては定住化の促進、交流の活性化などこれからの地域づくりに必要不可欠な社会基盤である。

ＪＲ福知山線の利用促進に向けた取組みを、市や鉄道事業者等と連携を図りながら実施し、福知山線の乗車人員の増加を図る。

## ２　事業内容

### (1)「たんば鉄道イベント実行委員会※」の活動推進

秋の観光シーズンに京阪神地域の観光客等にむけたＰＲ活動や丹波市内の駅を起終点とする「丹波もみじめぐりバス」などのイベントを実施する。

※　「たんば鉄道イベント実行委員会」：丹波市、県(丹波土木)、丹波市観光協会、丹波市商工会、JR西日本篠山口駅で構成(事務局：丹波市)

鉄道利用促進キャラバン（JR 京橋駅）
令和６年９月 13 日
チラシ等 1,500 部配布

丹波もみじめぐりバスツアー（達身寺ほか）
令和６年 11 月９日、10 日、15 日、16 日
81 名参加

### (2) 丹波篠山市観光協会と連携した活動推進

春と秋の観光シーズンに丹波篠山市内の駅を起終点とした「駅からはじまるハイキング」のイベントを実施する。(５月と11月の２回を予定)

駅からはじまるクリンソウの咲く多紀連山
ハイキング　令和６年５月 18 日　24 名参加

駅からはじまる大山の里ハイキング
令和６年 11 月 17 日　18 名参加

## ３　予 算 額　　１，３００千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 丹波土木事務所<br>企画調整担当 | 所長補佐<br>乳原正文 | 内線３５３<br>(直)0795-73-3828 |

# 学生等による地域貢献活動の推進

## １　事業目的

学生等が地域団体と連携して実施する自主的な地域貢献活動を支援するとともに、大学生等からまちづくり推進等に関する提言やアイデア等を得て、地域の課題解決や活性化を図る。

## ２　事業内容

### (1) 活動費等の補助

ア　対象団体

丹波地域において地域連携活動を実施する大学生、又は大学生と大学を卒業した社会人（以下「大学生等」という。）が５人以上で構成する団体

イ　補助概要

補助額：１団体あたり20万円以内(県１／２，市１／２)

補助対象：交通費、ボランティア保険、報告書作成費、活動地周辺での宿泊費等

採択団体：10団体程度

ウ　対象活動

学生等の団体が、地域団体と連携・協働して実施する地域貢献活動

### (2) 活動報告会の開催（2月頃）

参加団体間の交流を図り、情報共有による活動の更なる深化を図る。

(参考：令和６年度の活動状況〔丹波地域にて県内外の14団体が活動〕)

高校生との竹林整備の竹材を活用したヤギ小屋製作

【関西大学】(令和６年 12 月)

学生によるデマンド交通の乗車体験会

【大谷大学】(令和６年 11 月)

## ３　予　算　額　　１，１００千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 丹波土木事務所<br>まちづくり建築課 | 所長補佐兼課長<br>福田　充宏 | 内線３９１<br>(直)0795-73-3860 |

# 地域防災力の充実強化事業

## １　事業目的

多様化する自然災害に備えた地域防災力の強化を図るため、平時から市域を越えた丹波地域内の関係機関と「顔が見える関係」を構築するとともに、「自分たちの命は自分たちで守る」という意識を醸成し、地域防災力の強化を図る。

また、阪神・淡路大震災の経験と教訓を承継し、県民一人ひとりが大震災を忘れず、将来の災害に備えるため、「ひょうご安全の日」である１月17日の前後に、学校等と連携した防災訓練を実施するほか、「たんばっ子！学びフェスタ」にて、青少年を対象とした防災教育を行う。

## ２　事業内容

### (1) 地域防災力向上事業

自主防災組織、社会福祉協議会、災害ボランティア団体、行政等の災害時支援関係機関・団体と課題等を共有し、防災に関する知識を習得する研修会を実施する。

時期：令和７年６月頃

内容：研修会、ワークショップ

### (2) 「１．１７は忘れない」地域防災訓練推進事業

学校と自治会等の地域住民、関係機関・団体等が連携した防災訓練を実施する。また子どもたちに阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承する「ひょうご安全の日」地域のつどいを開催する。

時期：令和８年１月

内容：「ひょうご安全の日宣言」の読み上げ、防災講話、
起震車による地震体験訓練

地震体験訓練

### (3) 丹波青少年の防災訓練教育推進事業

「たんばっ子！学びフェスタ」において青少年を対象に地震体験車による地震体験を実施するなどの防災教育を行う。

時期：令和７年11月

内容：起震車による地震体験

## ３　予 算 額　　１,２５９千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>総務防災課 | 班長(企画防災担当)<br>藤原　猛雄 | 内線２１３<br>(直)0795-73-3718 |

# ㊎兵庫丹波ブランド農産物の生産振興強化

## １　事業目的

兵庫丹波地域のブランド農産物である栗、小豆等の生産維持・拡大に向け、振興方策の検討や条件整備等による生産体制の強化を図る。また、丹波地域で古くから取り組まれてきた有機農業のさらなる生産拡大を図るため、農業者の技術習得や有機農産物の付加価値向上、販路獲得の取組を支援する。

## ２　事業内容

### (1) 丹波栗の郷づくり推進事業

ア　丹波栗再生戦略会議の運営

県民局、丹波篠山市、丹波市、ＪＡ、商工会、観光協会等で構成する「丹波栗再生戦略会議」において、担い手の育成、栽培面積拡大等の振興方策を検討する。

イ　生産体制の強化

(ア) 新植園の条件整備

新規植栽園の成園化を図り、生産量向上を促進するため、大規模剪定、縮間伐、獣害対策、凍害対策等に要する経費を助成する。

(イ) 栽培技術向上支援

丹波栗の高品質化や多収穫などの栽培技術を新規栽培者等に広く普及するため、生産者組織が行う技術研修活動を支援する。

(ウ) 丹波栗苗木生産体制整備

苗木の試験ほを設置し、丹波地域に適した優良苗木の生産・供給体制を確立する。

### (2) 大納言小豆対策事業

丹波大納言小豆の収量や認知度の向上等を図るため、ＪＡや丹波市等の関係機関と連携し、栽培技術実証やＰＲ活動を実施する。

### (3) 丹波ブランド有機農産物の生産力強化（令和７年度～）

ア　新規就農者等の技術力・生産力を高める取組支援

有機農業の技術や知識の習得、生産力向上に係る勉強会や研修会の開催を支援する。

イ　有機農産物の価値を高める取組支援

有機農産物の量販店等での販売・取引を有利に進めるため、有機 JAS の新認証取得を支援する。

ウ　販路の確保・拡大の取組支援

有機農法への理解醸成や有機農産物の消費拡大を目的に地域内外の消費者や実需者を対象としたイベントの開催、PR 資材の作成・活用を支援する。

有機農産物イベント

### (4) 酒米新品種「Hyogo Sake 85」のブランド育成

丹波地域が栽培好適地である酒米新品種「Hyogo Sake 85」の認知度を高めるため、管内酒造メーカーと連携し、管内外のイベント出展等によるPRを実施する。

## ３　予算額　　４,１４７千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 丹波農林振興事務所<br>農政振興課 | 課長<br>篠倉　和己 | 内線３００<br>(直)0795-73-3793 |

# ㊊先端技術等を活用したスマート農業の推進

## １　事業目的

地域の中心的な栽培品目である水稲や、黒大豆、大納言小豆、栗、山の芋に代表される丹波地域のブランド農産物の産地維持・拡大を進めるため、生産の効率化や高品質化、安定生産に向けたスマート農業技術の実証を行うとともに、地域内への技術導入を推進する。

## ２　事業内容

### （１）土地利用型作物におけるスマート農業技術の実証（令和７年度～）

ア　ドローンを活用した水稲栽培の省力化と安定生産技術の実証

育苗および移植の省力化につながる直播技術の確立に取り組む。また、気候変動下での安定生産に向けた施肥技術の確立に取り組む。

イ　黒大豆の安定生産に向けた省力的なかん水技術の実証

高温・少雨下での省力的かつ効果的なかん水につなげるための方法を検討する。

水稲におけるドローン追肥

### （２）果樹におけるスマート農業技術の実証

ドローンを利用した栗の防除の省力化や効率化に向けた検討を行う。

栗におけるドローン防除

## ３　予算額　　２，５００千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 丹波農業改良普及センター<br>地域課 | 課長<br>大槻　孝子 | 内線３２１<br>(直)0795-73-3803 |

# 兵庫丹波ブランド農産物の魅力発信

## １　事業目的

黒大豆・小豆・栗・山の芋に代表される丹波地域のブランド農産物のブランド力をより強固なものとし、四季を通じた丹波地域の賑わいを創出するため、各種フェアの開催や新商品開発等を支援する。

## ２　事業内容

### (1) 兵庫丹波ブランド農産物の各種フェアの開催

ア　「丹波栗フェア」の開催

丹波栗を味わえる店舗、商品などを広く紹介するため、13回目となるフェアを開催する。

開催時期：9月～11月(予定)

※令和6年度：9/14～11/4　76店舗

イ　「ぜんざいフェア」の開催

丹波市の丹波大納言小豆から作ったぜんざいを味わえる市内飲食店等を紹介するため、10回目となるフェアを開催する。

開催時期：11月～2月(予定)

※令和6年度：11/1～2/18　34店舗

ウ　「山の芋フェア」の開催

山の芋の生産者や市内飲食店等と連携し、産地としての魅力を発信するため、７回目のフェアを開催する。

開催時期：11月～2月(予定)

※令和6年度：11／23～2/2　40店舗

### (2) フードビジネスへの新たな取組に対する支援（新商品等開発応援事業）

兵庫丹波ブランド農産物を活用した新商品開発にかかる試作や販売促進の経費を支援する。

## ３　予算額　　５,５００千円

各種フェア(丹波栗、ぜんざい、山の芋)

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 丹波農林振興事務所<br>農政振興課 | 課長<br>篠倉　和己 | 内線３００<br>(直)0795-73-3793 |

# 丹波の地酒魅力向上事業

## １　事業目的

地場産業である清酒業の振興のため、竹田川源流の一つに位置する三宝ダムの管理トンネルにおいて、同水系の水を使用している丹波市内の３酒造と連携し、「Hyogo Sake 85」等を原料とした日本酒等を貯蔵・熟成させる貯蔵酒の取組を行う。貯蔵酒は、蔵出し時にイベントを実施するなど、「丹波三宝（みたから）ダム貯蔵酒」として付加価値を持たせ販売促進を図る。

## ２　事業内容

### (1) 丹波三宝ダム貯蔵酒事業（R3～　）

①　酒　造

株式会社西山酒造場、山名酒造株式会社、鴨庄酒造株式会社

②　時　期

蔵入れ（4月上旬）、蔵出し（9月下旬）

商品公表・販売開始（10月上旬）

③　主な取組

共通ロゴ、チラシ、ポスター等の作成、SNS等による情報発信

販売イベント（10月上旬）の実施等

丹波三宝ダム貯蔵酒

### (2) その他管内酒造との連携

①　「明治鐘ケ坂隧道」の活用について引き続き検討

②　周遊観光バスツアーでの酒蔵見学・体験プログラムやひょうご楽市楽座への出展など管内酒造と連携して魅力を発信

## ３　予 算 額　　５００千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 班長(大丹波連携・観光担当)<br>芦田　由紀子 | 内線２９１<br>(直)0795-73-3788 |

# 食文化ツーリズム・プロジェクト

## １　事業目的

丹波地域の食や文化について、食材そのものを始め、育てる人の思いや地域ならではの味わい方、土地の風土など、五感の全てで地域の魅力をストーリーとして楽しむ食文化ツーリズムを推進する。

## ２　事業内容（R4～　）

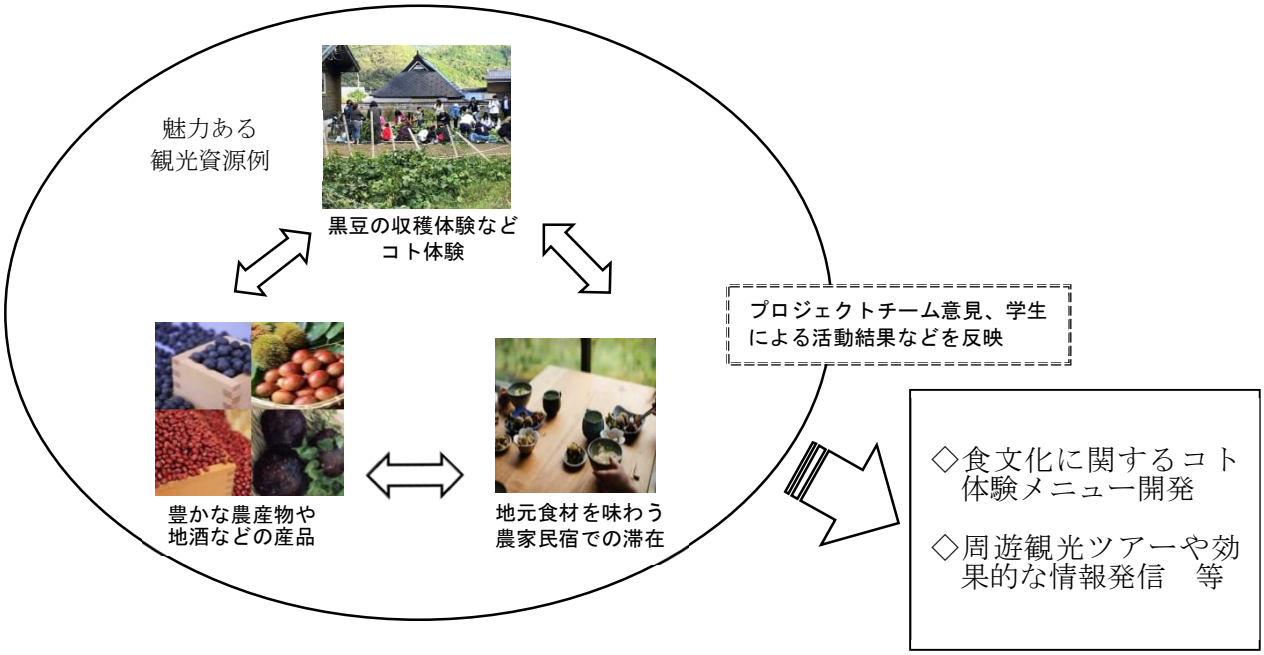
(1) 食文化ツーリズムの展開方策等を議論する「食文化ツーリズムプロジェクトチーム」を運営

(2) 県と地域創生等に係る包括連携協力協定を結んでいる関西国際大学と連携し、観光学科学生が主体となって、生産者や飲食・観光事業者等の協力を得ながら、地域資源を活用したコンテンツの開発、イベント等を実施する。

(3) プロジェクトチームの意見、学生による活動結果などを踏まえて、コト体験コンテンツの開発支援や着地型周遊観光ツアー催行、WEBサイト「ぶらり丹波路」、SNS等による情報発信などの取組を展開する。

## ３　予 算 額　　５００千円

[事業イメージ]




| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 班長(大丹波連携・観光担当)<br>芦田　由紀子 | 内線２９１<br>(直)0795-73-3788 |

# 四季の丹波「コト体験」の充実

## １　事業目的

旅行ニーズの「モノ消費」から「コト消費」への移行や、マイクロツーリズム需要、大阪・関西万博開催に伴う国内外からの観光需要を見据え、中小企業者等が実施する丹波の地域資源を活用した「コト体験」コンテンツのブラッシュアップ等を支援することにより、四季を通じて更なる誘客を図る。

## ２　事業内容（R3～7）

丹波地域への誘客に資する丹波の食・食文化を体感できる体験プログラムなど地域資源を活用した、新たなコト体験の開発又は既存コト体験の磨き上げに要する経費を支援することにより、コンテンツの充実を図る。

### (1) 補助対象者

丹波地域に本店又は活動拠点を有し、体験型プログラムを営む中小企業、中小企業団体(事業協同組合等)、小規模事業者、個人事業主等(地域団体や農業従事者等を含む)

### (2) 補助対象

コト体験の新規開発・磨き上げに要する経費

ガイド育成講習の講師謝礼、物品・備品購入費、改修工事費、宣伝費、

ホームページ開設・改修費　等

### (3) 補助額

上限20万円(補助対象経費の1/2)　12件程度

## ３　予 算 額　　２，４２０千円

地元食材のお菓子づくり体験

紙製インテリアづくり体験

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 班長(大丹波連携・観光担当)<br>芦田　由紀子 | 内線２９１<br>(直)0795-73-3788 |

# ㊍丹波広域観光の推進

## １　事業目的

丹波地域の四季折々の魅力情報を様々な媒体により発信し、認知度を更に高めて誘客の促進、交流人口の拡大を目指す。

## ２　事業内容

### (1) 丹波地域の観光情報の発信

①　ウェブサイト「ぶらり丹波路」の管理運営
　　リーフレットと連動した特集記事やイベント情報等を発信

②　リーフレット「ぶらり丹波路」の作成
　　特集テーマに基づく観光情報を新たな視点で発信
　　・作成部数：30,000部 × ２回

③　ぶらり丹波路ツーリズムマップの作成
　　・作成部数：10,000部

④　Instagramフォトコンテストの実施　等

リーフレット「ぶらり丹波路」イメージ

### (2) 広域観光の連携推進

**【大丹波連携】**

①　大丹波ホームページ、ＳＮＳの運営・内容充実
　　大丹波地域の旬の観光情報等を適時に発信

㊐②　まるごと大丹波ドライブパス事業（仮称）と連携した誘客促進
　　NEXCO西日本が実施予定のドライブパス事業（R7.4開始予定：ETC車がエリア内の高速利用時に定額で乗り放題）と連携し、大丹波地域への誘客促進キャンペーン事業を実施
　　・チラシ、ポスター等による情報発信
　　・キャンペーン事業の実施（大丹波ドライブスタンプラリー、Instagramフォトキャンペーン）

③　大丹波観光推進委員会の運営

**【北近畿広域観光連携】**

①　北近畿エリアと連携した観光情報の発信等

### (3) 着地型周遊観光バスツアー事業の実施

ひょうごフィールドパビリオン、観光資源等を周遊する着地型周遊観光バスツアー事業を実施
　・催行時期：令和7年5月～8年2月頃
　・催行回数：15回程度

## ３　予 算 額　　８，８９０千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 班長(大丹波連携・観光担当)<br>芦田　由紀子 | 内線２９１<br>(直)0795-73-3788 |

# 恐竜化石フィールドミュージアムの推進

丹波地域恐竜化石
フィールドミュージアム

## １　事業目的

恐竜化石フィールドミュージアム構想に基づき、野外博物館の魅力を地域内外へ広く伝えることにより、フィールドミュージアムの浸透強化と地域内外からの更なる誘客を図る。

## ２　事業内容

**(1) 恐竜スポット周遊二次交通の整備（新規）　※再掲**

大阪・関西万博に合わせ、鉄道駅とちーたんの館、恐竜化石発見地周辺までのルートでグリーンスローモビリティの定期運行を実施するなど二次交通の整備により鉄道利用と恐竜スポットの周遊・誘客の促進を図る。

**(2) 企業部会の運営・副業的人材の活用(継続)**

協議会のもとに設置した企業部会や、民間企業から招聘する副業的人材と連携し、民間企業の視点からコト体験のメニュー開発等を進める。

**(3) 情報発信・プロモーション(継続)**

フィールドミュージアム内でのイベント・展示会情報等をホームページと連動してＳＮＳで発信。企業、関連団体、サポーター等の協力を得てＳＮＳでの拡散（リツイート、リポスト）を促進する。

「大地とくらしのガイドブック」をフィールドミュージアム拠点施設・サテライトとともに、地域外のサービスエリアや公共施設等にも配架する。

**(4) 人材育成・活用(継続)**

潜在的顧客層の掘り起こしに向けサポーター制度を運用し、LINE公式アカウント等で定期的に情報を提供し、フィールドミュージアムへの来訪を促す。

発掘調査・研究事業やイベント事業を継続的に推進していくため、人と自然の博物館が認定する化石専門指導員の資格取得を働きかける。

**(5) 商品開発、製作(継続)**

丹波地域で発掘した恐竜・哺乳類をモチーフにした商品の企画・開発に取り組む。

**(6) モバイルスタンプラリーの実施(継続)**

丹波地域内の恐竜化石及び篠山層群にゆかりのある地を巡るモバイルスタンプラリーを実施する。

**(7) 出前化石発掘体験会(アウトリーチ事業)の実施(継続)**

化石専門指導員と連携し、丹波地域内及び都市部の県立公園等で化石発掘体験会を実施する。

**(8) 丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会の運営支援(継続)**

推進協議会の運営費を支援し、恐竜化石フィールドミュージアム構想の取組を進める。

【出前化石発掘体験会の様子】

## ３　予 算 額　　５，２７４千円　　※再掲の新規事業除く

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 地域振興専門員<br>山岸　勝弘 | 0795-73-3717 |

# ㊐ 恐竜スポット周遊二次交通の整備

## １　事業目的

大阪・関西万博に合わせ、鉄道駅とちーたんの館、恐竜化石発見地周辺までのルートでグリーンスローモビリティの定期運行を実施するなど二次交通の整備により鉄道利用と恐竜スポットの周遊・誘客の促進を図る。

## ２　事業内容

ｸﾞﾘｰﾝｽﾛｰﾓﾋﾞﾘﾃｨ

⑴　**グリスロ運行**　ＪＲ加古川線久下村駅、ちーたんの館、ＪＲ福知山線下滝駅、恐竜化石発見地周辺を結ぶルートを鉄道ダイヤに合わせて運行

①　運行ルート　最寄り駅からちーたんの館、元気村かみくげ等のスポット

②　運行時期　　令和７年７月から１０月（土日祝）

⑵　**電動トゥクトゥク貸出**　ＪＲ福知山線丹波大山駅で貸出

①　貸出時期　　令和７年７月から１０月（土日祝）

電動ﾄｩｸﾄｩｸ

電動ｱｼｽﾄ付き自転車

⑶　**電動アシスト付き自転車貸出**　最寄り駅で貸出

①　貸出時期等

ｱ)　春季事業（令和７年４月から５月）
　　福知山線下滝駅、丹波大山駅で貸出

ｲ)　秋季事業（令和７年９月から１０月）
　　加古川線久下村駅、福知山線下滝駅、丹波大山駅で貸出

## ３　予 算 額　　８，１２４千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 地域振興専門員<br>山岸　勝弘 | 0795-73-3717 |

# 丹波すぐれもの大賞-TAMBA INNOVATION AWARD-による顕彰

## １　事業目的

地元企業の優れた企画・技術力を広くアピールし、地域の産業を活性化するため、地域発イノベーションを推進する革新的で高い技術力による製商品の製造や、地域資源を観光・交流につなげる事業やイベントを行う企業や団体等を「丹波すぐれもの大賞- TAMBA INNOVATION AWARD-」として表彰する。

## ２　事業内容（H23～　）

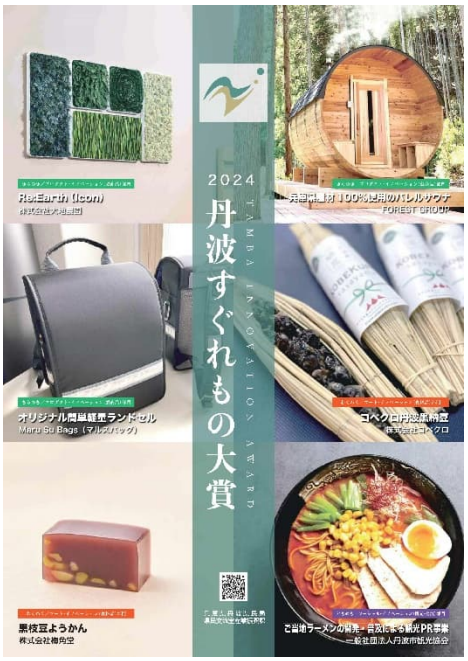
### (1) 表　彰

以下の３部門において審査を行い、特に優れた評価を受けた企業・団体等を表彰する。

①　きらめき（製商品）部門
　革新的で高い技術により開発された製商品

②　わくわく（食料品）部門
　丹波地域の特色を活かした独創的で優れた品質の食料品

③　ときめき（観光・交流）部門
　地域資源を新たな工夫で活用し、観光・交流を促進する事業、イベント




### (2) 募　集

自薦又は他薦により表彰対象を募集する。

### (3) 選考・表彰

審査委員会において選考し、県民局長が表彰する。

### (4) 広報等

選考された製商品等は、パンフレットの作成・配布や県民だよりひょうご、ホームページ等の様々な機会を捉えて地域内外へ広く発信し、丹波のものづくり産業等への関心を高める。

また、賞の価値を高めていくため、受賞製商品は産業メッセ等の展示会へ出展し、情報発信する。

## ３　予 算 額　　７４０千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 班長(大丹波連携・観光担当)<br>芦田　由紀子 | 内線２９１<br>(直)0795-73-3788 |

# 人材確保・産業立地推進事業

## １　事業目的

若者の地域定着やＵＪＩターンの促進等による若者人材の確保を図るため、「丹波地域人材確保協議会」（※）において、構成団体相互の連携のもと、若者と地元企業のマッチング応援事業等を実施する。

また、市及び関係機関と連携した企業の誘致活動を引き続き展開することにより、産業立地の推進を図る。

**※「丹波地域人材確保協議会」構成団体**

丹波県民局、柏原公共職業安定所、丹波篠山市、丹波市、丹波篠山市商工会、
丹波市商工会、丹波雇用開発協会、管内６高等学校、氷上特別支援学校、篠山養護学校

## ２　事業内容

### (1) 若者と地元企業のマッチング応援事業

| 内　　容 | 事業名 | 主な対象者 | 開催予定時期 |
|---|---|---|---|
| 地元就職の支援 | 合同就職面接相談会 | 就職希望者(卒業見込、ＵＪＩターン含む) | R7.7月頃 |
| | 採用担当者向け人材確保セミナー | 企業採用担当 | R8.2月頃 |
| 将来の就職に向けた地元企業の紹介 | 高校生対象企業紹介フェア | 高校生<br>企業採用担当 | R7.4月頃 |
| | 高校と企業との就職情報交換会 | 企業採用担当<br>高校進路指導職員 | R7.5月頃 |
| | 企業と大学等の就職情報交換会 | 企業採用担当<br>大学等ｷｬﾘｱｾﾝﾀｰ職員 | R8.2月頃 |

### (2) 丹波地域企業の魅力情報の発信

①　学生や保護者らの地元就職への関心を高めるため、管内企業の魅力情報や地元就職した若者のインタビュー等を地元紙を活用して発信

②　大学等への企業紹介、企業向け研修会の開催等

企業と大学等の就職情報交換会
（R6.2 月開催）

### (3) 企業誘致プロモーション

企業誘致機関への工場適地情報等の提供、市との企業誘致等にかかる情報交換等

## ３　予 算 額　　８７５千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 室長補佐兼課長<br>中井　昌彦 | 内線２８８<br>(直)0795-73-3775 |

# “シリ丹バレー”構想の推進

TAMBA Innovative Challenge
シリ丹バレー

## １　事業目的

大都市に近接するも自然豊かな丹波地域は、新しいライフスタイルの創造が可能な地域として注目浴びている。この機会を活かし、内外の産学官民のネットワーク形成を進め、地域発イノベーションの創出・創発を促進するエコシステム「シリ丹バレー構想」を推進し、地域の持つ人・場・資源と外部からの知恵・資金等を組み合わせ、さらなるイノベーション創出を図る。

## ２　事業内容

### （１）シリ丹バレー推進協議会の運営

丹波地域全体でプロジェクトを推進するために、関係機関の参画を得て設立した「シリ丹バレー推進協議会」において、それぞれの課題を共有し、事業の企画・実施を行なう。

### （２）“シリ丹バレー”ウェブサイト［silitan-valley.com］の運営

シリ丹バレー推進協議会の活動状況、イベント情報、活動報告等の情報を掲載するとともに、小規模集落や農家等に対する地域課題ソリューションの提供、地域住民と都市部企業や地域企業とスタートアップ企業等のマッチング事例を掲載するなど、地域が必要とする情報の提供に努める。

【ウェブサイトで紹介するコンテンツ】
県起業支援制度、イベントレポート（総会、セミナー等）、コワーキングスペース施設の情報発信 等

### （３）シリ丹バレー推進セミナーの開催

シリ丹バレープロジェクトに関心を持った企業、移住者、起業家、地域住民等を対象にセミナーを開催する。

【セミナー例】ワーケーション、ＤＸ推進、スマートコミュニティ等

### （４）起業・創業支援

#### ①　民間副業人材の活用

副業的人材として地元金融機関から協議会事務局に派遣を受けるとともに、都市部からIT・広告・マーケティング等の専門分野にかかる副業人材の活用を推進する。

#### ②　ユース起業アカデミーの実施

若者を対象に起業家精神を醸成するビギナーコース、より深く起業のノウハウを学ぶアドバンスコースを開設し、丹波地域でイノベーションを起こす人材の発掘・育成を推進する。

#### ③　コワーキング・スペースのハブ機能の促進

地域内外のコワーキング・スペースのネットワーク化により、地域事業創造のハブとしての発展を促す(地域資源､食等を活かしたコワーキング･スペースでの小規模定例セミナーの開催等)。

#### ④　スマート・コミュニティ・プロジェクトの推進

暮らしやすい持続可能な地域社会の実現に向け、スマート技術の集落等への導入を研究する。

#### ⑤　丹波ウッドバレープロジェクトの推進

木材関連産業を循環型地域経済の核と位置づけ、丹波産木材の生産拡大、流通・加工の促進、関連産業の裾野拡大を目的に木材関連産業創造ネットワークの形成を図り、新事業創出を目指す。

#### ⑥　丹波型事業共創コミュニティ形成事業の実施

地域への愛着を抱く地元の起業家・事業者（事業共創パートナー）を中心に、地域主導で主体的に事業を発意して新しいビジネスを興し、地域内外の力を結集し事業を展開するためのコミュニティ形成をめざすとともに、次世代を担う人材を発掘に取り組む。

#### ⑦　たんばＬＰＳ（Local Problem Solution）チャレンジ事業の実施

丹波地域内における地域課題解決に資するビジネスプランや地域資源を活かしたビジネスプランを公募し、セミナー・メンタリング･審査・プレゼンを通じて計画をブラッシュアップする。

コンテスト形式で地域内外に発信するとともに、事業創造の取組を支援する。

## ３　予 算 額　　２０，１５５千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 多自然地域づくり専門官<br>北口　純也 | 0795-88-5045 |

# グローカル丹波2025推進事業

## １　事業目的

2025年に開催される「大阪・関西万博」に向けて、関係者で課題や情報を共有し、丹波地域におけるフィールドパビリオン（以下「ＦＰ」という。）資源を効果的に発信するとともに、万博開催後も資源を活かした取組を持続的なものにしていく。

## ２　事業内容

丹波地域のＦＰコンテンツの連携強化を目的に、セミナーの実施やＦＰの組み合わせにより創出された体験プログラムの実証的モニターツアーを実施し、成果・課題の共有、意見交換を行う。

### （１）ＦＰコンテンツ連携創出セミナー

① 実施時期　３回程度
② 実施場所　丹波管内
③ 実施内容　セミナー、ワークショップ、モニターツアー対象コンテンツの選定　等
④ 対 象 者　ＦＰコンテンツ提供者
⑤ ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　行政、観光協会、関経連、シリ丹バレー推進協議会会員、シンボルプロジェクト関係者、プラットフォームTAMBA関係者　等

### （２）実証的モニターツアー（現地研修）

① 実施時期　２回程度
② 実施場所　上記セミナーで選定された丹波管内ＦＰコンテンツ提供場所
③ 実施内容　コンテンツ体験、成果の共有　等
④ 対 象 者　旅行業関係者、外国人、地元の小学生～大学生、ＦＰプレイヤー　等

## ３　予 算 額　　１，４６５千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 室長補佐兼班長<br>田路　正崇 | 内線414<br>(直)0795-73-3779 |

# ㊕万博関連戦略プロモーション事業

## １　事業目的

令和７年度の万博開催を契機に、関西圏に訪れる国内外の旅行客が増加することが想定される。観光のゴールデンルートとされる京都や大阪において、丹波地域での万博関連事業を効果的に情報発信するとともに、特設ＨＰやＳＮＳを活用したプロモーションを実施し誘客促進を行う。

## ２　事業内容

### （１）三者（丹波篠山市、丹波市、丹波県民局）合同ＰＲイベント事業

万博期間中、ゴールデンルートとされる京都・大阪等で両市や丹波県民局の万博関連事業の取組みや魅力を発信することで、認知度向上および誘客促進を行う。

### （２）丹波地域万博関連事業発信プロモーション

ひょうごフィールドパビリオン等の事業をより効果的に発信し誘客促進を行うため、特設ＨＰの運営やＳＮＳによる発信、啓発品の作成等を行う。

## ３　予算額　　３，０００千円

参考：万博関連事業ブース出展の様子
（R6 丹波の森フェスティバル）

参考：FP コンテンツ体験の様子
（丹波年輪の里）

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 室長補佐兼班長<br>田路　正崇 | 内線414<br>(直)0795-73-3779 |

# ㊕ＴＡＭＢＡのもりびと10万人計画
# ～丹波の森創造プランの実践～

## １　事業目的

昭和 63 年に丹波地域の２万世帯を超える署名を得て採択した「丹波の森宣言」を起点に、丹波地域全体を「丹波の森」と称して、人と自然と文化が調和した地域づくりである「丹波の森づくり」を 30 年以上にわたって取り組んできた。

しかしながら、時間の経過とともに「丹波の森宣言」や「丹波の森づくり」の認知度は低下しており、あらためて地域住民に上記浸透を図る必要があることから、(公財)兵庫丹波の森協会が中心となって令和６年３月に「丹波の森創造プラン」を策定した。

令和７年度は当計画を実践し、丹波の森宣言や丹波の森づくりの理念浸透を図るとともに、丹波 2050地域ビジョンに基づく次代を担うもりびとを育成する。

## ２　事業内容

### （１）若い世代へ理念浸透を図る積極的な広報

特に若い世代の認知度が低下していることから、年代に応じた数種類のわかりやすい冊子や動画などのコンテンツを制作し、積極的な広報を推進する。

### （２）次代を担うもりびとの育成

出前講座の実施や丹波の森づくりの理解を深めるための研修会等の開催、丹波の自然を活かした体験活動等への参加を促進し、次代を担うもりびとを育成する。

## ３　実施主体

公益財団法人兵庫丹波の森協会

## ４　予 算 額　　１，４７９千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 班長(丹波の森･青少年担当)<br>阪本　明功 | 内線２９０<br>(直)0795-72-5168 |

# たんばユース躍動プロジェクト
## -丹波 2050 地域ビジョンの推進-

### １　事業目的

故河合雅雄先生の理念のもとで実施されている「丹波縄文の森塾」のアドバンスコースとして、次世代を担う中学生、高校生、大学生世代が自然の中で感性を磨き、生きる力、ふるさと意識を再認識する機会を創出する「たんばユース躍動プロジェクト」事業を実施する。

### ２　事業内容(令和４年度～)

県立丹波の森公苑をフィールドとして、森の再生を図るために必要な「動物」と「植物」の実態について学ぶとともに、県立ささやまの森公園においても、鳥類の生息を支える森の仕組み等を学ぶ。

**≪参考：令和６年度実践講座≫**

**(1)県立丹波の森公苑**

①植物の生態を学ぶ
- 森の成り立ちと植物の見分け方、検索図鑑を用いた樹木の学習
- シカの食害による植生の変化を理解する、丹波の森公苑での影響の現状と対策

②食の恵みを体感する
- シカ問題を食べるから考える、ジビエ料理の体験と試食
- 人と野生動物の関わりを考える、野生動物の捕獲と食資源化について
- 畑から食卓までの循環～有機農業の視点でシカ問題を考える～

③動物の生態を学ぶ
- 野生動物の生息状況の調査方法、センサーカメラの設置
- センサーカメラの回収、撮影されたデータの確認と集計

④生活環境への恵みを学ぶ
- 森が有する現代的役割と保全･活用方法

**(2)県立ささやまの森公園**

①里地や森の鳥の生息環境について
②鳥の観察と調査の方法、現地研修
③鳥類の生息状況と生息環境のフィールド調査
④フィールド調査の発表会

図鑑を用いて樹木の学習

### ３　実施主体

公益財団法人兵庫丹波の森協会

### ４　予算額　　２，０９７千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 班長(丹波の森･青少年担当)<br>阪本　明功 | 内線２９０<br>(直)0795-72-5168 |

# ㊊シューベルティアーデたんばの支援

## 1　事業目的

1995年(平成７年)に始まった「丹波の森国際音楽祭シューベルティアーデたんば」では、丹波地域全域で長年にわたり「街角コンサート」をはじめとする各種事業が住民主体により展開されてきた。

2025年(令和７年)は「丹波の森国際音楽祭シューベルティアーデたんば実行委員会」が大阪・関西万博の開催にあわせて記念コンサートを開催することからこれを支援し、シューベルティアーデたんばの更なる定着を図るとともに国際交流の機運を高める。

また、音楽を通した地域内外との交流拡大、ふるさと意識の醸成を図るため、子供たちと家族、地域住民等が音楽家等とふれあい、音楽を楽しむ「ふるさと音楽ひろば」の開催を支援する。

## 2　事業内容

### (1) 2025年大阪･関西万博開催記念事業

著名なオーケストラを招聘した記念コンサートを開催

### (2) ふるさと音楽ひろば

ア　対　　象

小学生を中心とする子ども、家族、地域住民　等

イ　実施場所

学校施設等を活用し、丹波地域10カ所程度で開催

ウ　主な内容

- 音楽家による生演奏を鑑賞
- 音楽についての講話(楽器や楽曲について)
- 児童・生徒、保護者、地域住民による音楽体験(音楽家との共演、演奏体験)
- 児童・生徒の演奏発表及び音楽家による具体的指導

### (3) 実施主体

丹波の森国際音楽祭シューベルティアーデたんば実行委員会

音楽家との交流

演奏風景

## 3　予 算 額　　１，７８９千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 班長(丹波の森･青少年担当)<br>阪本　明功 | 内線２９０<br>(直)0795-72-5168 |

# ㊕集落文化発掘・体験事業

## １　事業目的

丹波地域の集落文化、特に祭礼については、担い手の不足、コロナ禍を経たことによる小規模化・中止等の状況にあり、また若者の集落文化への意識の希薄化といった問題がある。

後世に集落文化を継承・発展させていくためには地域内外の様々な人の参画を得ることが不可欠であるため、「丹波地域集落文化特集ページ」を作成し、地域内外へ情報発信することで、若者の意識醸成、祭礼への参加者や見学者といった関係人口の増加、祭礼の担い手確保を図る。また観光誘客に活用することで、新たな観光客確保に努める。

## ２　事業内容

### （１）検討会議の開催

プロジェクトチームメンバーを対象に、集落文化の継承・発展、観光誘客等のための新たな取組を検討する会議を年３回実施する。

### （２）特集ページ作成

集落文化を情報発信する特集ページを「ぶらり丹波路」に作成し、地図、動画等を掲載する。

### （３）動画制作

丹波地域の祭礼の内容が分かるプロモーション用動画（10本、１本３分程度）を制作し、特集ページに掲載する。

## ３　予算額　　１，５５１千円

厄払い伝統行事「鬼こそ」

集落の山車

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 室長補佐兼班長<br>田路　正崇 | 内線414<br>(直)0795-73-3779 |

# 丹波２０５０地域ビジョン推進事業

## １　事業目的

令和４年３月に策定した「丹波2050地域ビジョン」で描いた望ましい地域の将来像の実現に向けて「シンボル・プロジェクト」に選定した12の事業を各プロジェクトチームが主体的に推進していく。

また、丹波地域の次代を担う高校生・大学生・新社会人等からなる「第２期たんばユースチーム」を結成し、その提案をプロジェクトの推進に活かしていく。

各プロジェクトチーム、ユースチーム等の活動をつなぐ推進組織として結成した「プラットフォームTAMBA」を運営し、ビジョンの推進に向けた連携、協働を促進する。

## ２　事業内容（令和４年度～）

### (1) 第２期たんばユースチームの活動

「丹波2050地域ビジョン」で描いた地域の将来像の実現に向けて、高校生、大学生、新社会人等の丹波地域に関わりのある若者が、丹波地域の未来を考え、イベントの企画や実施、丹波の魅力発信など地域づくり活動に取り組む。

### (2) プラットフォームTAMBAの運営

丹波2050地域ビジョンの推進にあたり、12のシンボル・プロジェクト毎に結成された産学官民からなる「プロジェクトチーム」と「たんばユースチーム」の間をつなぐ推進組織としての「プラットフォームTAMBA」を運営し、年次計画の策定、各事業目標の設定、成果と課題の共有等を図る。

たんばユースチームの活動

プラットフォームTAMBAフォローアップ会議

## ３　予 算 額　　４，９７４千円

| 担当部署 | 担当者 | ＴＥＬ |
|---|---|---|
| 県民躍動室<br>総務防災課 | 班長(企画防災担当)<br>藤原　猛雄 | 内線２１３<br>(直)0795-73-3718 |
| 県民躍動室<br>地域共創課 | 班長(丹波の森・青少年担当)<br>阪本　明功 | 内線２９０<br>(直)0795-72-5168 |